

沖縄県の離島や北部地域において地域医療は現在危機的な状況になりつつあります。

離島での総合医の不足や北部地域での専門医の不足は深刻な状況にあります。医師ばかりでなく、地域の

医療体制そのものを根本的に変革させる必要があります。現在で国や県を中心に地域医療再生

計画が全国で開始されています。医師や医療関係者の適正な配分、さらには医療機関の間での役割分担の再構築が急務であります。

このような流れの中で、全



小宮 一郎

論壇

国の公立系の医科大学や医学部には、大学の所在地出身学生を優先的に入学させる地域

卒定員が新設されました。これは現在研修医も含め医師が都会に集中し、地方の医療崩

壊が進行している現状を打破し、地域の医療を担う医師を育成する試みです。旭川医科大学では、既に医学部定員の半数近くが地域医療卒となっ

生に7人の地域卒学生が学んでおります。彼らは1年生か

地域において学ぶ医学生たち

沖縄の地域医療再生へ

体となって、彼らの育成を担う必要があります。地域卒学生たちは地域に出て、さまざま

て、将来地域医療を担う医師が多数輩出されると考えられます。

部地域でフィールドワークを行いました。12日にはこの成果を発表するシンポジウムが開かれます（琉球大学50周年記念会館で、午後2時から5時まで、参加無料）。学生たちの熱心な取り組みを見ていただく良い機会と思います。

琉球大学医学部付属病院では、地域医療部および地域医療システム講座が地域医療卒学生、さらには医学科学生全体の地域医療教育を担当しています。そのような中で、琉球大学の地域卒学生を中心に全国の医療系学生が沖縄に集結し、平成23年3月9日から11日まで沖縄県の離島や北

学教員）

えられており、早期に実際の医療現場を学んでいます。しかしながら、医療、特に地域医療においては、大学で学ぶだけではなく、行政、地域自治体、さらには地域住民が一

ら地域医療に接する機会が与えられており、早期に実際の医療現場を学んでいます。しかしながら、医療、特に地域医療においては、大学で学ぶだけではなく、行政、地域自治体、さらには地域住民が一

ら11日まで沖縄県の離島や北

（那覇市、58歳、医師・大